

共生のひろば

人と自然からのメッセージ



2月11日(月・祝)に第3回の共生のひろばを開催しました。今回は口頭発表の場を大セミナー室からホロンピアホール(500名収容)にして、より多くの方に参加していただけるようにしました。発表の数は、口頭発表が19件、ポスター発表・作品展示が26件。発表者は小さな子から小・中学生、高校・大学生、主婦、さらには仕事をもっている現役の方から70歳を過ぎた方まで幅広く、テーマもさまざまでした。そして、口頭発表から館長賞を受賞したのは「亜熱帯性の蛾イチジクヒトリモドキの兵庫県姫路市における発生状況」占部晋一郎さん(17歳・姫路市在住の高校生)。

占部さんは、発表にあたって、プレゼンを作るのに苦労したとか。中でも発生状況の地図を作るのが大変だったそうです。「ひとはくの八木主任研究員にいろいろ助けてもらってなんとか出来ました。まさか自分が賞を取れるとは」と、ビックリの表情が印象的でした。その八木主任研究員からは占部さんへ「これを励みに昆虫道をまい進するように。期待しています!」と、こんなコメントをいただきました。

来年の共生のひろばは2月11日に開催されます。どんな発表があるのか、ご期待ください。また、共生のひろばで発表してみたいと思われる方は、ひとはくや県下各地で行っているセミナーや観察会、イベントなどに参加して、ひとはく研究員に声をかけてみてくださいね。



口頭発表館長賞は占部晋一郎さん

編集後記

春がやってきました。春—この節目の時期に今まで慣れ親しんだ環境から卒業して、新しい環境で生活を始めている人は、少なくないでしょう。環境が変わるといことは、心身共に楽なことではありません。でも卒業は、それと同時に新たな出会いもあります。それは、かけがえない出会いであったり、人生の岐路となる出会いであったりします。毎年この時期、美しく桜が咲いているのを見上げ、今までの別れや出会いを思い出し、今年はどうなるだろうか、と思います。

この春、何かを卒業した皆さんにとって、素敵な出会いがありますように。



ひとはく学校キャラバン

宝塚市立西山小学校体育館での展示風景(4年生児童のみなさんの「ミヤマアカネ」の調査報告や地域のみなさんの研究も同時に展示されました。)

わたしたちの学校の体育館や教室が博物館になる。博士が教室にやってくる。

今年もいくつもの学校でひとはく学校キャラバンが実施されました。博物館所蔵の標本やパネルが校内に展示され、児童生徒や保護者、地域の方々に見ていただきました。

また、研究員や博物館職員によるセミナーを教室でおこないました。子どもたちは、見慣れた教室や体育館が博物館になってビックリ。学校で実物に触れるセミナーに興味津々。

保護者や地域の方々もたくさん見学に訪れてくださいました。キャラバン開催にあたり、お世話になった先生方、地域の方々、PTAの皆様、ありがとうございました。

おもしろいゾ「やさしい化石レプリカ作り」



実物の化石を各々手に取り「おお〜。熱々のかたどりで「アっちっ!」。自分でつくった型から、本物そっくりのレプリカを取り出すときに「わあっ!」。小学生でもできるけど、けっこう本格的だったります。セミナー「やさしい化石レプリカづくり」好評です。



多目的ルームが博物館に



ど迫力! ティラノサウルス

平成19年度 学校キャラバン開催校

- 神戸市立井吹西小学校 (セミナー「ハチのふしぎ」) 10月4日
- 姫路市立余部小学校 (ワークショップ「葉脈標本づくり」) 10月27日
- 姫路市立八木小学校 (セミナー「化石のレプリカ作り」・展示) 11月14日~11月29日
- 神戸市立靴台小学校 (セミナー「化石のレプリカ作り」・展示) 12月1日~12月12日
- 西宮市立山口小学校 (セミナー「化石のレプリカ作り」・展示) 1月11日~1月21日
- 高砂市立荒井小学校 (セミナー「ハチの不思議に迫る」・展示) 1月21日~1月26日
- 宝塚市立西山小学校 (セミナー「化石のレプリカ作り」・展示) 1月23日~1月29日
- 尼崎市立武庫の里小学校 (セミナー「昆虫調べ」・展示) 1月30日~2月14日

ボルネオジャングル体験スクール

第10期生募集開始迫る!

ボルネオの熱帯雨林に子どもたちが飛び込む1週間。

期間: 7月25日(金)~8月1日(金)

対象: 小学校6年生~高校3年生

行き先: マレーシア国ボルネオ島サバ州ダナムバレー自然保護区

募集期間: 4月中旬~5月上旬

募集期間や応募条件・費用などの詳細は、生涯学習課までお問合せください。

夏学ふ

ことしも夏は、教職員セミナー

平成20年度も学校の夏季休業期間中にあわせて、夏季教職員セミナーを開催(8/11~8/20)。植物、昆虫、動物の生態、環境と地域づくり、地球科学、その他の分野で博物館の研究員が、基礎知識から最新の研究成果までをやさしくレクチャー。講義や実習の内容は、理系文系校種問わず、すぐさま学校で使える教材やスキルの宝庫。募集要項や講座一覧は4月に各学校あてに送付いたします。また、当博物館ホームページからも申込みができます。

ひとはく新聞 2008/3/29号

発行: 兵庫県立人と自然の博物館

〒669-1546

兵庫県三田市弥生が丘6丁目

079-559-2001 (代表)

発行日: 2008年3月29日

P3-4 挿絵: 高瀬優子

編集: 春名潤一・前田寛子・今西庸子

出版支援担当

編集長: 小林美樹

印刷: ウニスガ印刷(株)

『万葉集』 にみる植物

奈良時代に編纂されたといわれている万葉集。そこに描かれた世界には今より身近に感じられた自然が映りこんでいます。万葉集を読み解けば、その時代にあり、今は少なくなった植物を中心とした風景がみえてきます。

①ハギ(はぎ) ※写真はヤマハギ

万葉集には141首といちばん多く詠まれている。ハギはマルバハギ、ヤマハギなどの総称。夏から秋に開花。

②ススキ(おばな)

万葉集には46首とよく詠まれている。ススキは草原の代表種。屋根、牛馬のえさなどに利用された有用植物。

③クズ(くずばな)

万葉集には18首。至る所に生育し、夏から秋にかけて開花。花も美しいが、花の香りが非常に良い。根よりクズ粉をとる。繁茂しすぎる害草。

④カワラナデシコ(なでしこ)

万葉集には26首。草原に生育し、夏より初冬まで開花。美しい。「やまとなでしこ」とも言う。やまとなでしこは日本女性の美称としても使用。絶滅危惧に近い。

⑤オミナエシ(おみなえし)

万葉集には14首。草原に生育し、夏より秋に開花。花は黄色で、においは不良。

⑥フジバカマ(ふじばかま)

万葉集には1首のみ。やや湿った河川の草原に生育。秋に開花し、アサギマダラなどのチョウがよく集まる。草全体がよい香り。博物館では加古川産を増殖し、現地に戻している。絶滅危惧種。

⑦キキョウ(あさがお)

万葉集には5首。草原に生育。花が美しいためよく栽培されている。夏に開花。絶滅危惧種。

⑧アカネ(あかね)

万葉集では枕詞として使用。根よりアカネ色の染料をとる。茎は四角で葉は4枚輪生。

⑨ヒオウギ(ぬばたま)

万葉集では枕詞として使用。花は美しく、果実は漆黒。葉が楯形の形に似ているので、この名がついた。よく栽培されているが自生は少ない。淡路島産を栽培中。

⑩ナンバンギセル(おもいぐさ)

ススキなどに寄生する植物。ススキの根元から花茎を伸ばし、桃色の花をつける。万葉集の歌はススキとナンバンギセルの関係をよくとらえている。

⑪ムラサキ(むらさき)

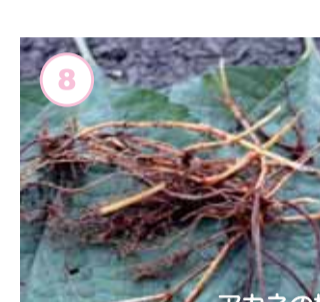
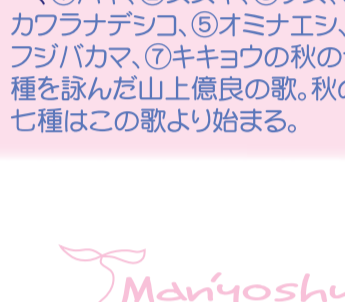
花は目立たないが、根は紫色で美しい。全国的に絶滅が危惧されている。博物館では万葉集に詠まれた滋賀県蒲生野産のムラサキを栽培中。紫染にも挑戦中。

⑫オキナグサ(ねっこぐさ、ねこぐさ)

ねこぐさとは茎や葉の長い毛をネコにたとえたものか。草原に生育。春に開花。有毛・球状の果実群はおもしろい。博物館では但馬産を栽培。

⑬チガヤ(あさぢ、ち)

万葉集には26首。万葉集だけでなく、日本書紀、枕草子、源氏物語など古典にもよく記されている。また、茅の輪くぐり、チマキ(5月の節句の粽は本来チガヤでまいた)など様々なことに利用されている。ススキと同様草原の代表種。今回取り上げた13種はすべて草原の構成種。チガヤはたくさんの植物の共生が可能な日本古来の野草で、万葉集のチガヤの歌の中にもスミレ、ハギ、クズ、ススキなどが詠まれている。万葉集では植物単体ではなく、景観要素の一つとして植物を詠んでいるように思われる。博物館ではキキョウ、オミナエシ、フジバカマなどのたくさんの野草を含んだチガヤ草原を育成し、万葉時代の草原復元に成功している。



一、はぎの花 尾花 葛花 までしこの花 女郎花
またふじばかま あさがおの花

二、あかねさす 日は照らせれど ぬばたまの 夜渡る月の 隠らく惜しも

五、芝付きの 三浦崎なる ねっこ草 会い見すあらば 我恋めやも

一、①ハギ、②ススキ、③クズ、④カワラナデシコ、⑤オミナエシ、⑥フジバカマ、⑦キキョウの秋の七種を詠んだ山上億良の歌。秋の七種はこの歌より始まる。



四、道の辺の 尾花が下の 思草(おもいぐさ) 今さらになぞ 物か思はむ

四、尾花はススキ、おもいぐさは⑩ナンバンギセル。ススキの下にナンバンギセルが何かを思い悩むように咲いているといった意味。

三、大海人皇子の歌。場所は滋賀県蒲生野。⑪ムラサキは紫色の染料として利用。私から離れて人妻になってしまったあなたですが、紫のように美しいあなたを憎むどころか今も恋していますというような意味。

三、紫草(むらさき)のおえる妹をにくくあらば 人妻ゆえに 我恋めやも

二、あかねさすは日、昼の枕詞。ぬばたまは夜の枕詞。両者とも直接植物を示してはいないが、あかねさすは⑧アカネの根の鮮な橙色より明るい「日・昼」の、ぬばたまは⑨ヒオウギの真黒な果実より暗い「夜」の枕詞として利用。

六、印南野の 浅茅(あさぢ)押しなへ 寝る夜の 日長くあれば 家ししのばゆ

六、山上億良の歌。印南野は兵庫県の印南野。浅茅とは草丈の低い⑬チガヤのこと。

五、神奈川県三浦海岸のシバ草原に生えているねっこ草(⑫オキナグサ)を詠んだ歌。オキナグサのように美しいあなたに会わなければ、こんなに恋に苦しむことはなかったのにという意味。

万葉関係のひとはくセミナー案内 ※お申込が必要です。

- 4月27日(日) 14:30~16:00 B07 植物と文化①本当のかしわもちとちまき
- 9月14日(日) 14:30~16:00 B32 植物と文化②秋の七種(ななくさ)



オキナグサ
アカネ

皆様の御要望があれば、特注セミナーとして「万葉集の植物」を開講いたします。詳しくはひとはく手帖(セミナーガイド)2008年度版を御覧下さい。